

○かかりつけ医のための認知症Q&A

認知症の早期診断

問診での聞き取りのコツを  
教えてください

回答者 田北 昌史

かかりつけ医が早期に認知症（とくにアルツハイマー型認知症）を診断し、早期に治療を開始することは患者さんの予後改善に有益と考えられます。しかし、かかりつけ医の先生方の話を伺うと「永年診療している患者さんに形式ばった心理テストなどはなかなかできませんよ。」とよく言われます。

確かにかかりつけ医はその地域の患者さんを数十年に渡り診察していることが多く、認知症

を疑っても、改めて新長谷川式簡易痴呆スケールやミニ・メンタル・ステートを施行することは困難だと考えられます。

認知症の診断をする場合、一番重要な情報はご家族など生活を一緒に行っている人たちからの客観的情報ですが、かかりつけ医の場合は患者さんが単身で来院する場合も多く、診断に必要な情報が得られないことも考えられます。このような場合どのような対処が必要でしょうか。

まず初期から出現するといわれる時間の見当識障害の有無をつまく確認することが重要です。「今日は何月何日ですか。」と直接尋ねることが気まずければ、たとえば何らかの申し込みの書類（予防接種の申込書など）を渡して、「今日の日付も書いてください。」とお願ひしてみるのも一つの手段です。また「ちよつとマヒの有無を確かめますから、ここに正方形（三角形）を描いてください。」と紙を渡し、「ついでに今日の日付も書いておいてください。」とさりげ

なく付け加える方法も、不自然さがなくよいでしょう。

短期の記憶については昨夜の食事の内容を尋ねることが有効で、しかもかかりつけ医の質問としても自然です。しかし、内容を答えられない場合は有効ですが、一応答えられた場合、単身での来院時は正答かどうか判らないという欠点があります。

本人にとって重要な過去の出来事やご家族の情報を尋ねてみることもその患者さんを永年診察されて、ご家族や経歴などの患者背景を熟知されたかかりつけ医にしかできない有効な方法だと思います。たとえば以前はご夫婦で来院されていたが、今はご主人が先に亡くなっておられる患者さんには「そういえばご主人が亡くなられてどれくらいになりますかね」とか、以前は子供さんも受診しておられた方には「息子さんは今どちらにお住まいですかね。」などと尋ねてみてみましょう。また「現役時代は

どちらにお勤めでしたかね。」や「小学校はどちらでしたかね。」のような過去の経歴をそれとなく尋ねることもよいと思います。私は本人が喜んで話してくれる話（過去に会社で活躍した、軍隊で苦労した等）などを少し長めに話してもらい、その内容に矛盾した点などがないかどうかなども認知症の診断の参考にしています。

ご家族が患者さんの認知症を疑って、来院された場合は「いつ頃から、どのような症状があつて、それが生活にどのような障害を生じているか？」を尋ねて下さい。ご家族が配偶者の場合は患者さんと同様に高齢の場合が多く、話がまとまらなくて時間がかかることがよくあります。表には認知症の初期症状としてご家族が気づいた日常生活での変化が列挙してあります。

このような症状を念頭に「こんなことはありませんか？」と尋ねてみてよいと思います。

患者さんは長期の信頼関係に基づいてかかりつけ医を受診していて、公私に渡るお付き合い

## 家族が最初に気づいた痴呆性高齢者の 日常生活上の変化 (n = 123)

がある場合も多いと思います。このよき信頼関係を壊すことなく、早期の認知症診断を行うことはなかなか困難です。しかし専門医受診も、かかりつけ医の勧めがあつて行われる場合がほとんどです。認知症の早期発見、早期治療のためには最前線で診療に従事されるかかりつけ医

- 同じことを何回も言ったり聞いたりする
- 財布を盗まれたと言う
- だらしなくなった
- いつも降りる駅なのに乗り過ごした
- 夜中に急に起き出して騒いだ
- 置き忘れやしまい忘れが目立つ
- 計算の間違いが多くなった
- 物の名前が出てこなくなった
- ささいなことで怒りっぽくなった
- 時間の感覚が不確かになった
- 蛇口やガス栓の締め忘れが目立つ
- 日課をしなくなった
- 前はあった関心や興味がなくなってきた
- 前よりもひどく疑い深くなった
- 処方薬の管理ができなくなった
- 複雑なテレビドラマの筋がわからなくなってきた
- 慣れているところで道に迷った

の役割が今後ますます重要になってくると考えられます。

(今津赤十字病院 精神科 部長)

### 文献

- 1) 東京都福祉局・高齢者の生活実態及び健康に関する調査、専門調査報告書、1995

